

1-B-1 ✓ OSとTID

✓ 社会におけるOSの役割

✓ 市民のメリット

政策的なうすいテーマ (市民・社会)

大西さん: 人類学, 現地に学ぶ

奥田さん: 知のプライオリティ → オープン!
TIDを実践するプロジェクト
→ いかにサイエンスに密着
して人を巻き込めるか

熊澤さん: 知識の共有
きついサイエンスではない情報の
扱い, 個人情報も含む
データの扱い

1-β-2

林さん：市民参加型科学と
政策とリベラ視点
学会(17C)の起り
を参考に、市民も巻き込む

あさのさん：アクションリサーチの
視点が重要 08の
枠組みに入れる

- ✓ フィールド → 政策
- ✓ Academicist 以外へ
- ✓ 非対称性の解消

1-8-3

権力制 ← ICT
相方向化

(旧)

このグループで話す OS

・社会から出ているサイエンス
データ

大抵は: 本物の データの保持者
研究者: ITは知識なし

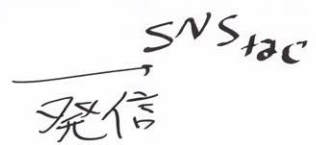
ITの人の
好き

1次データ → 科学者

データ保持していることと気づいて2人
人からどうデータを受け取る?

B-4

市民



↑ ? きっかけ

Twitter : 日本人 (多)

日本の強み

科学者はメディア
インタプリター



1人の天才 → 昔のノーベル賞

1-B-5

インタ-プリターのツール

✓ システムサイエンティスト

✓ サイエンスライター

人をつはこ

人

× 労働 収入の問題
○ 相方向型

日本: 社会教育, 生涯教育が
貧弱 (日本の弱み)

理由: 制度

教育制度のひずみ

- 生かすのサイエンティスト
- Post graduate → 研究者には37%と落伍者 (欧米は編集者, サポートお Job chance)
- 図の書き方, 表現の仕方

1-B-6

✓人をつなぐ人

✓人をつなぐ インフラ (ICT)

✓人をつなぐ インフラ (拠点)

奥田氏: 科学者の意識の変革が必要

林氏: 世代交代を待つ、しかし、
教育はくりがえすか?

転換が必要

政策決定者はこの認識
がまだ

熊澤氏: 別居トラブリングをおく?

林氏: 「名付け親」(20人)に偏る例

1-D-7
林さん(フブ)

データ整理のライムという

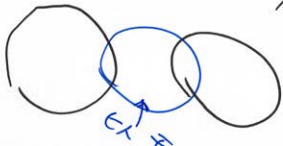
熊澤さん: 分業化ではない?

奥田さん: 分業ではなく シームレスに
市民から出せるという

大西さん: 市民の中から出てくる機会を
就職難とあって市民の中に
専門的の人という。

熊澤さん: その人たちをどうとりこむ?

林さん: 「フットソックス」
+ データハブリングと「インターデシiplinary」
チーム コミュニケーション



3-8 日本: せいじ
識字率
サイン行ラナー) 高

状況に応じて
メディアと利用。
(xt. 雑誌)

✓ 今ある資源 → 並列する
だけ

✓ 新しいもので # いこむのは
よくないのでは?

データの編集・管理・還元
1次データの
扱い. 再利用

「リト」ではなく、
1-B-9
最後
市民が欲しいものを
(奥田)

→ 内発的参加を
促す



琵琶湖マリン

直接ではなく生物と人と調和
一方で、現地の活動による

琵琶湖への貢献を

→ Value を生み出す

Co-creation

Co-creation によって

Value を生み出す
目的性の学術